



CABANA

BODY SHAFT

TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2018 PROFESSIONAL Series
Rd.3 AUTO POLIS ADVICS CABANA 86 REPORT

オートポリスラウンドは、練習走行で好調さを見せたが 予選は17位となり、決勝レースは追い上げるも13位フィニッシュ

Qualifying / 17th / 2'13"273

3シーズンぶりにTOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Raceにフル参戦している「T by Two CABANA Racing」。ドライバーには若手の堤優威選手を起用し、メインスポンサーとして大手自動車部品メーカーの株式会社アドヴィック様を始め、多くのサポートを受けて年間9戦のシリーズを戦っています。

4月28日(土)、29日(日)にスポーツランドSUGOで実施された第2戦では、予選でポールポジションを獲得し、決勝レースではオープニングラップから後続を引き離し圧巻のポールトゥウインを果たしました。プロフェッショナルシリーズのデビュー2戦目で早くも優勝したことで、堤選手は多くのメディアで取り上げられるとともに、ライバルチームや関係者からも注目を浴びることになりました。

優勝の勢いを持續させて臨んだ第3戦は、大分県のオートポリスが舞台。今戦は、予選と決勝レースを5月27日(日)の一日で実施する1DAY開催となりました。



チームは、5月24日(木)から走行を開始し、持ち込んだ車両のセットアップを確認するとともにコースコンディションのチェック、そしてドライバーのコースへの習熟度を上げるために走行を重ねます。25日と26日もサーキットのスポーツ走行枠とTOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Raceの専有走行枠が用意されていて、計4本の走行枠でテストを実施。ライバル勢との正確なタイム比較はできていませんでしたが、前戦からの好調さは維持していてトップ10内での戦いが予想されました。

3日間の練習走行を経て予選は5月27日(日)の9時40分から20分間に渡って行なわれました。予選開始直後にコースインした#7 ADVICS CABANA86を駆る堤選手は、1周に渡ってタイヤに熱を入れるとタイムアタックを開始します。ホームストレートから高速コーナーのセクター1ではトップタイムと遜色ないスピードを見せましたが、アップダウンと低中速コーナーの続くセクター2とセクター3でタイムが伸びません。結果として2分13秒273をマークし、17位となりました。予選は、20分の時間内の最後にタイムアタックを行なった#82 KTMS 86の谷口信輝選手が2分12秒643でポールポジションを獲得しています。

#7 ADVICS CABANA86は、予選に合わせてセットアップを変更したことで、コースコンディションの変化にドライバーが合わせ切れなかったことにより、練習走行よりもタイムを落としてしまう悔しい結果となりました。





予選終了から3時間30分のインターバルを経て、第3戦オートポリスラウンドの決勝レースが行なわれました。この週末は、事前の天気予報では降雨が予想されていましたが、26日の午前中こそ激しい雨が降ったものの、それ以外は好天に恵まれて、決勝レースも快晴の元で開催されることになりました。

10週の決勝レースは、予定通りの13時45分にフォーメーションラップがスタート。午前中の予選で17位となり、後続からの追い上げを図ることとなった#7 ADVICS CABANA86の堤選手は、好スタートを切って1コーナーまでに2台をパスして順位をアップします。1周目のコントロールラインを通過した時点で14番手となっていて、1周目に3つポジションを上げたこととなります。トップから14番手の堤選手までが、約7秒の中に密集した激しいテールトゥノーズの戦いが序盤から繰り広げられました。そんな混戦の中で堤選手は、3周目に自己ベストタイムとなる2分15秒038をマークして先行車を追います。4周目に入ると先行車のスピンによって1つポジションを上げて13番手に、しかしパッシングポイントが少ないオートポリスなのでラップタイムは上位陣と遜色ないものの、簡単に順位を上げることができません。

レースが後半戦に入る6周目には3番手争いでクラッシュが発生し、#7 ADVICS CABANA86は12番手にポジションを上げます。しかし、周回を重ねていくとマシンの加速感が鈍りだし、徐々に先行車から離されていきます。ラップタイムも2分16秒、17秒へと落ち、8周目にはひとつポジションを下げて13番手になります。苦しい状況ながらも必死に周回を続け、#7 ADVICS CABANA86は10周目に13位でチェッカーを受けました。

第2戦でポルトゥウインとファステストラップを獲得するフルポイントを得た堤選手は、連続してポイント獲得を狙いましたが、13位フィニッシュで残念ながらポイントを積み重ねることはできませんでした。次回の第4戦岡山国際サーキットラウンドは、6月23日(土)に予選、24日(日)に決勝レースが行なわれます。



前戦のスポーツランドSUGOラウンドで優勝したこともあり、ある程度の期待と自信を持って挑んだ第3戦でしたが、想像通りの結果とはなりませんでした。一勝を挙げたから、その勢いを持続できるというほど甘いカテゴリーではないことを再認識しました。ドライバーもチームとしても経験不足が露呈し、引き出しの少なさを実感しているので、まだまだ実力を付けていくことが必要です。今戦は、チームの母体となるグループ会社の地元開催ということで多くの応援団が駆け付けてくれました。結果は付いてきませんでしたが、観戦を楽しんでいる様子が見られて良かったです。次戦は、気持ちを切り替えてスポンサー様やサポートいただいている皆さまの期待に応えられるように準備していきます。



Driver's Comment

堤 優威選手／Yuui Tsutsumi

前戦で優勝できたことにより気持ちの余裕や自信も生まれて挑んだオートポリスラウンドでした。練習走行では、トップ集団とも遜色ない結果が出ていたので、その調子を維持して臨んだ予選でした。しかし、セットアップとコースコンディションが合わずに17番手となってしまいました。予選が重要となるワンメイクレースなので、下位に沈んでしまったことは悔しいです。決勝レースは追い上げを図ってポイント獲得を狙いましたが、一步届かずに13位でした。次戦に向けては、今回の反省を教訓にして、予選でひとつでも良い順位を得て結果を残していきたいです。



Chief Enginner's Comment

山崎登チーフエンジニア／Noboru Yamazaki

今回のオートポリスラウンドは24日(木)から走り始めて、気温や路面コンディションの異なる時間帯での走行、そしてウエットとドライコンディションなど様々な状況で練習走行ができました。タイムも悪くなかったので、チームとしてはトップ6に入れると予想して、1DAY開催の予選と決勝レースに臨みました。しかし、予選ではマシンのセットアップとドライビングが噛み合わずに苦しい展開となってしまいました。決勝レースは、最終ラップまで戦えるようにタイヤのライフを考えたセットアップで挑みました。それでも、中盤以降はラップタイムが上がらずに13位という結果でした。次戦までに決勝レースでのラップタイムが伸びなかった原因を掴んで、再びトップ争いを行なえるようにしたいです。今戦は、多くの応援団が駆け付けてもらった中での戦いだったのですが、結果が伴わず申し訳ありませんでした。



CABANA

BODY SHAFT